

令和7年 第2回定例会

一般質問文書表

稲城市議会

通告 番号	氏 名	質 問 項 目 （18人、53項目）	備 考
1	池 田 英 司	1 南多摩尾根幹線の整備計画について 2 子どもたちの縮小する遊び場問題について	
2	つ の じ 寛 美	1 稲城駅南口駅前広場の整備について 2 長峰地区の中にある地図表記のオブジェについて 3 稲城市内の車道の管理について 4 いなぎ里山レンジャーについて 5 物価高騰対策として	
3	山 岸 太 一	1 介護予防としての難聴高齢者への支援について 2 災害時にペットの命も守ることのできる防災対策について 3 生理用品をトイレトペーパーのようにトイレに置くことで女性の 尊厳や健康を守る取り組みについて 4 子どもたちが自分自身の心と体を大切にすることができる包括 的な性教育の実施について	
4	北 浜 けんいち	1 プラスチックごみの分別収集について 2 子どもたちを犯罪から守るために	
5	川 村 あ や	1 学校における生徒および先生のサポートについて 2 だれもが楽しめる公園づくりについて	
6	村 上 洋 子	1 化学物質過敏症や香害に関する啓発や予防の施策について 2 人工芝のマイクロプラスチック流出削減対策について 3 給食の飲み残り牛乳の処分について	
7	中 島 健 介	1 匿名・流動型犯罪グループと闇バイトについて 2 がん患者とその家族への心のケアについて	
8	中 田 中	1 公共空間の戦略的活用による地域経済の活性化と「ほどよく田 舎 ほどよく都会なまち」の実現について 2 大規模災害時におけるマンション防災対策への対応について	
9	佐 藤 しんじ	1 「朝の小1の壁」を解消するための対策について 2 特別支援学級と通常学級の交流について 3 市民後見人の拡充について 4 家族の介護負担を軽減する取り組みについて	
10	武 田 まさひと	1 犬の飼育に関するマナー啓発、行政の対応強化について 2 稲城市におけるドッグラン設置に向けた取組状況について	
11	角 田 政 信	1 ジャイアンツタウン スタジアムのオープンで期待する効果や今 後の取り組みについて	
12	湯 谷 ひろし	1 災害時のトイレ確保について 2 自転車の交通安全対策及び利用環境の整備について 3 肺炎予防について	
13	岡 田 まなぶ	1 路線バス・iバスを地域公共交通として守る取り組みについて 2 多摩サービス補助施設の返還等について 3 向陽台地域の歩道の改修等について	

14	梶 浦 み さ こ	1 消防・救急・防災分野におけるDXの推進について 2 気候変動に適応したグリーンインフラについて 3 プレコンセプションケア(プレコンケア)について	
15	土居 のりひろ	1 地域住民参加型雑草対策について 2 在留外国人との共生社会実現に向けた施策について 3 在留外国人の国民健康保険税の未納問題について 4 人権問題に関する市の取組について	
16	田 島 き く 子	1 小中学校校舎の断熱化について 2 ひとり暮らしの高齢者のための見守り電球サービスについて 3 稲城市内の駅の駐輪場の利用について 4 教育費の保護者負担の軽減について 5 保育園給食費の無償化について	
17	榎 本 久 春	1 居宅介護支援事業所のケアマネジメントのあり方について 2 中学校の部活動の現状について	
18	いそむらあきこ	1 小学校での朝の子どもの見守り体制と安全な学校づくりについて 2 災害時に要配慮者を守るための福祉避難所のあり方について 3 学童クラブ及び放課後子ども教室におけるアレルギー対応について 4 心身障害者のタクシー料金給付事業における利便性向上について	

通告番号	会 派 名	氏 名
1	新政会	池 田 英 司

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
1	南多摩尾根幹線の整備計画について 南多摩尾根幹線については、稲城市、多摩市、八王子市を經由し、町田街道に接続する、多摩地域の骨格を形成する重要な路線であります。 この道路については、大半が暫定2車線であるため、慢性的な交通渋滞が発生しており、生活道路に交通が流入するなど、沿道環境の悪化を招いていたことから、現在、東京都において、全線4車線化する工事が進められております。 稲城市内においても、現在、堅谷戸大橋付近で橋梁の工事や、長峰3丁目付近でトンネル工事の一環として、擁壁工事等が行われており、早期の整備が期待されるところであります。 一方で、市民からは、例えばこれまでは右折ができていた交差点が南多摩尾根幹線の4車線化に伴い、右折ができなくなるなど、自動車の動線に影響がでないのか、また、トンネルの上部において駐車場などの新たな土地利用ができないのかという声をいただいております。 そこで次のことについて質問いたします。 (1) 稲城市内の南多摩尾根幹線の整備概要について伺います。 (2) 南多摩尾根幹線の整備による、自動車動線への影響について伺います。 (3) トンネル上部の新たな土地利用について伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	子どもたちの縮小する遊び場問題について	
	新型コロナウイルス感染症の流行で、社会活動に制約が課されたことで、スポーツ活動にも多大な影響がありました。スポーツに慣れ親しむ機会が減ったことで、運動する人、しない人の二極化が進んでおり、特に子どもたちの体力低下の問題が指摘されています。また、将来、稲城市からオリンピックやワールドカップに出場するような選手を輩出することに繋がる可能性も考えると、野球やサッカーなどのボールにも小さいうちから触れてほしいと考えます。しかし、昔と比べてボール遊びができるような空き地はほとんど無くなり、子どもたちが放課後に自由に遊ぶことができる場所は限られているように感じます。 そこで次のことについて質問いたします。 (1) ボール遊びが子どもたちにもたらす影響について、教育の観点から伺います。 (2) 放課後に子どもたちが、ボール遊びを自由にするのできる場所について、公園や児童館、小学校の校庭の実態を伺います。 (3) 市はスポーツの推進として、市民ひとり 1 スポーツを掲げているかと思いますが、子どもたちが自由にボール遊びをできる環境について、市の認識を伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
2	公 明 党	つのじ寛美

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	稲城駅南口駅前広場の整備について	
	(1)稲城駅南口駅前広場整備工事について	
	①バス乗り場の現状と今後の取組について伺います。	
	②ベンチの設置について伺います。	
	③工事期間中におけるバスの運行や利用者にと のような影響があるのか、また、今後の取組や対 策について伺います。	
	(2)シェアサイクルについて	
	①シェアサイクルの概要について伺います。	
	②シェアサイクルステーションの設置場所や台 数、利用開始時期など伺います。	
	③稲城駅南口駅前広場に新設される事により、利 用者の返却として近隣のシェアサイクルステーションの 増設も必要になると考えます。見解を伺います。	
2	長峰地区の中にある地図表記のオブジェについ て	
	長峰地区の中にある地図表記のオブジェは、当初 から数多く設置されています。長峰連合会や地域 住民からは、老朽化が酷く、地図面がはがれてきて見苦 しいので、何とかならないのかということで相談 をよく受けます。以前私は、一般質問も致しました。	
	(1)現状について伺います。	
	(2)管理者について伺います。	
	(3)今後の取組について伺います。	

項目 番号	質　問　要　旨	摘　要
3	稲城市内の車道の管理について 市内の車道については、至る所で老朽化による舗装面の悪化が見受けられます。 舗装面悪化に伴い轍や穴が生じてしまった場合における、対応方法について見解を伺います。 (1)市内の車道の舗装の維持管理方法について伺います。 (2)今後の取組について伺います。	
4	いなぎ里山レンジャーについて 1月11日に「いなぎ里山レンジャー」の発足式を開催したと伺いました。「いなぎ里山レンジャー」は、公共の緑地や樹林地の手入れを楽しみながら行うボランティアの事です。 (1)概要について伺います。 (2)参加者の活動状況について伺います。 (3)今後の取組と期待する事について伺います。	
5	物価高騰対策として 都議会公明党は、19日都庁内で小池都知事に会い、物価高で生活が圧迫されている中で、猛暑が予想される夏を迎えるに当たり、熱中症から命と健康を守るための緊急要望を行いました。 (1)経緯について伺います。 (2)今後の取組について伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
3	日本共産党	山岸太一

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
1	介護予防としての難聴高齢者への支援について 認知症の総合支援のひとつとして難聴高齢者の早期発見や早期介入の取り組みが注目をされています。補聴器購入補助も含めて、稲城市でも積極的に取り組んでいくことを求める立場から質問します。 (1) 介護保険「保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金」の制度概要について聞きます。 (2) 令和6年(2024年)3月に出された厚労省委託事業「保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金の評価指標と活用方策に関する調査研究一式報告書」の内容について聞きます。 (3) 「介護保険保険者努力支援交付金」を難聴高齢者の早期発見や早期介入に活用することについて認識を聞きます。	
2	災害時にペットの命も守ることのできる防災対策について 災害時にペットの命を守るための防災対策が進んでいます。人もペットも安全に避難できる体制づくりを求める立場から質問します。 (1) 稲城市防災訓練でのペット避難訓練について ① 令和6年度稲城市防災訓練においてペットを持ち込んだ避難訓練が行われた経緯と当日の実施状況について聞きます。 ② ペット避難訓練の実施による成果と課題について聞きます。 ③ 令和7年度稲城市防災訓練でのペット避難訓練の実施について認識を聞きます。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	(2) 避難所でのペット避難の受け入れ態勢について ① 避難所でペット避難のために準備されている資材について聞きます。 ② ペットの避難にあたって市として飼い主への広報や啓発状況について聞きます。 生理用品をトイレットペーパーのようにトイレに置くことで女性の尊厳や健康を守る取り組みについて 全国の公共施設で生理用品をトイレに設置したり、無償配布したりする取り組みが広がっています。稲城市でもトイレットペーパーと同じように生理用品をトイレに設置することを求める立場から質問します。 (1) 国の取り組みについて ① 「地域女性活躍推進交付金」の目的と対象となる主な事業内容について聞きます。 ② 令和3年4月14日付文科省事務連絡「内閣府が実施する女性の相談支援及び子供の居場所づくり等に係る交付金（地域女性活躍推進交付金及び地域子供の未来応援交付金）の活用促進について（周知）」において学校での生理用品の提供について述べられている内容を聞きます。 (2) 自治体での取り組みについて ① 内閣府男女共同参画局が公表している「『生理の貧困』に係る地方公共団体の取組（2024年10月1日時点）概要」の内容について聞きます。 ② 同局が公表している「『生理の貧困』に係る地方公共団体の取組のうち、地方公共団体による独自の取組（2024年10月1日時点）一覧」および「『生理の貧困』に係る地方公共団体の取組のうち、交付金を活用した取組（2024年10月1日時点）一覧」において取り組みが紹介されている多摩地域の自治体数と自治体名について聞きます。 ③ 市役所および公共施設での生理用品の無償提供やトイレへ設置することについて認識を聞きます。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	子どもたちが自分自身の心と体を大切にすることが できる包括的な性教育の実施について 「生理の貧困」は経済的な困窮だけでなく、知識の貧 困でもあるという指摘がされています。一人ひとりの子 どもたちが心と体を大切に思える、人権とジェンダー平 等に基づいた包括的な性教育の実施を求める立場から 質問します。 (1) 学習指導要領における性教育について ①学習指導要領における「性や生殖」に関する学習内容 について聞きます。 ②「生命（いのち）の安全教育」の目的と内容について 聞きます。 (2) 稲城市での取り組みについて ①稲城市教育委員会が採用している保健体育の教科書 での生理に関する記載内容について聞きます。 ②市内の学校における学習指導要領の範囲を超えた性 教育の実施状況について聞きます。 ③学習指導要領の枠を超えて、子どもたちが生理や生殖 について包括的に学ぶ性教育を実施していくことにつ いての認識を聞きます。	教育長の答 弁を求める

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	子どもたちを犯罪から守るために	
	オンラインゲームがきっかけで犯罪に巻き込まれた事が確認された子どもの数が、2024	
	年、98人にのぼり増加傾向にある事が警察庁のまとめで分かりました。ゲーム内で協力する	
	事で生まれる仲間意識などが悪用され、犯罪に	
	巻き込まれた事が確認されたとの事です。	
	オンラインゲームは、ボイスチャットやメッ	
	セージを交換する機能が付いていて、匿名の相手とも簡単にやり取りが出来るうえ、ゲーム内	
	で協力する事で生まれる仲間意識やゲームの上	
	級者に対して子どもが抱く憧れの感情が悪用され、性犯罪に巻き込まれるケースが多いという	
	事です。	
	また、今年の1月には、17歳の男子高校生	
	がオンラインゲームで知り合った人物から、海外渡航を持ち掛けられ、ミャンマーで特殊詐欺	
	の電話をかけさせられていた事が明らかになりました。	
	その後も、東京都内の16歳の女子高生が愛	
	知県内の民家で遺体で見つかり、この家に住む男が死体遺棄容疑で警察に逮捕されました。	
	女子高生は「ネットゲームで知り合った知人の家に泊まりに行く」と家族に話して自宅を出た	
	との事です。	
	この様な事を踏まえて、子どもがどの様なゲ	

通告番号	会 派 名	氏 名
5	稲志会	川村あや

項目 番号	質 問 要 旨	
1	学校における生徒および先生のサポートについて 現在、市内小中学校には、教育現場の指導者としていらっしゃる先生方の他に、教育補助員、特別支援指導補助員、介助員、スクール・サポート・スタッフ、そして2024年からはエデュケーション・アシスタント、副校長補佐という方々が、児童生徒および教員のサポートをする為に補助員として働いています。 稲城市は、より手厚い教育をと願う親御さんの期待に応えるべく、教育委員会をはじめ行政の方々も、子ども達により良い教育環境をと試行錯誤して取り組んでいただいていると思います。 稲城市の人口増ではありますが、子どもの数は国と同様、年々、減少しています。それと比例して教員のなり手も減少しています。昨今、先生方の負担を減らしていく取り組みとして様々な働き方改革が行われています。 稲城市では、どのような対策を講じ対応しているのか伺います。 (1) 現状について ①現在の配置校および人員体制について伺います。 ②これまでの支援件数および人員の推移について伺います。 (2) 傾向について ①補助員について伺います。 ②補助内容について伺います。 (3) 増員について ①市の考えについて伺います。 ②課題について伺います。 ③今後について伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	だれもが楽しめる公園づくりについて	
	稲城市は大小併せて185箇所の公園があります。 市民1人あたりの公園面積は東京都内では多摩市に次いで2位であり、市民1人あたり10.8㎡と広く、地域住民にとって憩いの場が多く確保されています。 公園数に比例しているのが遊具であり、これによってメンテナンスを必要とする機会も多くなっています。 市民の方々に安心して利用していただく為に、定期的に公園整備が行われています。 これまで、赤ちゃんから高齢者まで、そして健常者も障がい者も分け隔てのないインクルーシブパークと呼ばれる公園づくりについて質問させていただきました。 国土交通省は子どもや子育て世帯の目線に立った公園整備を進めるため、各自治体への支援制度を創設、支援しています。市内の整備を進める時に、国や都の支援を活用し、実際に公園を利用されている方々の声を反映させ、より使いやすく楽しみやすい、そして多くの方に利用される公園が望ましいと思い今回も質問させていただきます。 (1) 公園整備について ①市の考えを伺います。 ②課題について伺います。 ③近年、整備した内容について伺います。 (2) 吉方公園について ①公園整備のコンセプトについて伺います。 ②進捗状況について伺います。 ③課題について伺います。 (3) 今後の公園整備について ①予定されている内容について伺います。 ②課題について伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
6	無 所 属	村上洋子

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
1.	化学物質過敏症や香害に関する啓発や予防の施策について 化学物質過敏症は症状などの個人差が大きく、理解されにくい面もありますが、日々の生活に支障をきたすほど困っている方も多いのが実情です。 膨大な化学物質に対する国や行政の把握や規制、対策などはなかなか進まず、困っている人が自ら対策をするしかない状況です。 自ら対策をしたり、周りの人に協力を求めても理解されないこともあり、大変困っている方もいます。 化学物質過敏症や香害等について、市民への啓発や予防的な施策を積極的に行い、市民の深刻な悩みに寄り添い、生活の質と健康を守るための取り組みが必要と考え質問いたします。 (1) 化学物質過敏症の啓発や相談に関する市の現状の取り組みについて伺います。 (2) 香害に関する相談や取り組みについて伺います。 (3) 公共施設（市役所、文化センター、学校、体育施設、保育園、幼稚園）の手洗い洗剤について伺います。 (4) 公共施設（同上）の調理室、給湯室で使用する洗剤について伺います。 (5) 公共施設（同上）での芳香剤の使用について伺います。 (6) 市のウェブサイトにて、健康面も含め化学物質過敏症や香害に関する啓発のためのページを作成する事について市のお考えを伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2.	人工芝のマイクロプラスチック流出削減対策について	
	人工芝は手軽で使い易いことから様々な場所で使用されていますが、マイクロプラスチックとなって環境に排出されることが懸念されます。 近年の調査によると、複数の調査結果から河川でのマイクロプラスチックは人工芝からの流出が多いと推測され、10%から多い地点では50%を占める場所もあるとのことです。 また、人工芝に使用されるプラスチックにはPFAS等有害化学物質が使用されているものもあり、市においても調査と流出削減のための取り組みが必要と考えます。 (1) 公共施設での人工芝の使用状況を伺います。 (2) 人工芝からのマイクロプラスチック流出の現状について伺います。 (3) 人工芝からのマイクロプラスチック流出削減の取り組みについて伺います。 (4) 第三次稲城市環境基本計画をもとにした今後の取り組みについて市の認識を伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3.	給食の飲み残し牛乳の処分について	
	稲城市の給食の牛乳は低温殺菌の質の良い牛乳ですが、飲み残しの残乳が発生しています。 食育とフードロスの削減の観点から、また、水環境の保全の点からも、残乳を減らす取り組みが必要と考え質問いたします。 (1) 給食の牛乳の残乳の調査とその概要について伺います。 (2) 残乳の処理方法について伺います。 (3) 牛乳が体質に合わないなどの理由で飲まない場合の手続き等について伺います。 (4) 残乳を減らす現状の取り組みについて伺います。 (5) 今後の取り組みについて伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
7	稲志会	中島 健介

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	匿名・流動型犯罪グループと闇バイトについて	
	警視庁は令和7年2月10日、令和6年に東京都内で発生した特殊詐欺の被害総額が約153億円に上り、過去最悪だった平成30年の約1.7倍に急増したと明らかにしました。 近年 SNS の普及と技術の進歩を背景に、「匿名・流動型犯罪グループ」（通称：トクリュウ）が台頭し、被害拡大の原因となっていると見られています。 また、匿名・流動型犯罪グループのインターネットを使った犯行手口によって、一般人が犯罪者に仕立て上げられることで、社会全体の治安が悪化し、地域社会に不安が広がることや、これらの犯罪で得た資金が暴力団などの反社会的勢力の資金源となることもあり、社会への脅威は甚大です。 そこで、匿名・流動型犯罪グループの概要や特徴を伺うとともに、国、東京都、稲城市でそれぞれどのような対策が取られているのか、また、新たな加害者を生まないための取組や一度連絡を取ってしまった人が、犯罪グループから抜け出すことができる体制が構築されているのか伺ってまいります。	
	(1) 匿名・流動型犯罪グループの概要とその特徴について	
	(2) 闇バイトの概要について	
	(3) 全国的な特殊詐欺について、特に SNS 型投資詐欺、SNS 型ロマンス詐欺の近年の被害額、被害件数とその傾向について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	がん患者とその家族への心のケアについて	
	日本の生涯がん罹患率は非常に高い一方で医療の進歩により生存率も向上していることから、がんと共に生きる人々やその家族への支援、特に精神心理的なケアの重要性が増しています。 国や東京都において、がんに関する情報提供体制の構築やコミュニティの場の提供などサポート体制の整備が進められています。 また、自治体によってはアピアランスケア助成、AYA世代に特化した支援、ピアサポート活動の促進など様々な支援が行われています。 がん患者は、治療や副作用に関する治療についての情報を求め、今後の就労についてや経済的な不安といった精神的苦痛も日々感じながら闘病しています。 そして同じ経験を持つ仲間との交流を求めている方も大勢いらっしゃいます。 さらに家族もまた、「第二の患者」として精神的負担、肉体的負担、情報不足、コミュニケーションの悩みなどを抱えており、家族自身のケアも不可欠です。 がん患者やその家族が少しでも明るい未来を描き、心も身体も元気に、日常生活へ復帰できる社会を目指して、稲城市のがん患者と患者の家族への支援体制について伺ってまいります。	
	(1) 日本のがん患者の人数とがんになる人の割合と傾向について	
	(2) がん患者が求めている支援について	
	(3) 国のがん患者とがん患者の家族に対する心のケアの取り組みについて	
	(4) 東京都のがん患者とがん患者の家族に対する心のケアの取り組みについて	

通告番号	会 派 名	氏 名
8	稲志会	中田 中

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	公共空間の戦略的活用による地域経済の活性化と「ほどよく田舎 ほどよく都会なまち」の実現について 本市における公共空間（公園、道路、広場等）は、市民の生活の質向上だけでなく、地域経済の活性化、コミュニティの醸成、そして都市魅力の向上に不可欠なポテンシャルを秘めています。近年、全国の自治体では、規制緩和や民間活力の導入、地域団体との連携を通じて、公共空間を戦略的に活用し、新たな賑わいを創出する先進的な取り組みが加速しています。 第五次稲城市長期総合計画の中でも「賑わいの創出による観光のまちづくりの推進」を掲げており、市民や関連活動団体等と連携して、イベント等への集客力を高める、とあります。この目標達成のためには、公共空間の活用に向けた制度的、運用面でのさらなる改善が不可欠です。特に、民間事業者の収益活動への対応や、継続的なイベント実施に向けた支援策、そしてまちづくり会社等の専門組織の活用が重要であると考えます。 中心市街地の形成や飲食業の集積が進む他市を後追いするのではなく、本市が持つ「ほどよく田舎 ほどよく都会なまち」という独自の魅力を最大限に引き出し、新たな経済の芽を育む戦略が必要です。その具体的な打ち手の一つが、リスクを抑えて事業を始められるマルシェ等の活用だと考えます。 つきましては、本市の公共空間のさらなる活用と持続可能な賑わい創出、そして地域経済の活性化に向け、以下の点について質問いたします。	
	(1) 稲城市の公共空間の利用状況と「まちの賑わい」への経済的評価について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	① 本市では公共空間（公園、道路、広場等）において、どのような方針に基づいてイベントや活動への貸し出しを行っているのか、経済・産業振興の視点から、その基本的な考え方をお聞かせください。	
	② 直近 1 年間（令和6年度）において、公共空間（公園、道路、広場等）を利用して開催された市民活動や民間事業者によるイベント、社会実験等の実績件数と、その内容についてご説明ください。	
	③ それらのイベント等の主催者が市や教育委員会に対して「後援申請」をする場合がありますが、申請手続き及び後援を許可する判断基準についてご説明ください。	
	④ 公共空間（公園、道路、広場等）の活用が、本市の「まちの賑わいづくり」にどのように寄与しているか、について、特に市内の商業活動や消費動向への影響という観点から、市の認識をお伺いします。	
	(2) 公共空間の「商業利用」に関する経済・運用の課題認識について	
	① 公共空間（公園、道路、広場等）におけるイベント等で、飲食物の販売や物販など「商業利用」と見なされる場合の貸出基準や利用料徴収の考え方について、具体的にご説明ください。	
	② 利用主体からは、広報宣伝や機材購入等の先行投資した場合の雨天中止のリスクを考慮すると、継続的なイベント実施に必要な「ある程度の利益」を出すことも必要といった声も聞かれます。市として、これらの課題が事業者の参入障壁となっていることをどのように認識し、経済活動の観点からどのような課題があると捉えていますか。	
	(3) 公共空間（公園、道路、広場等）の更なる活用推進について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	① 店舗を持たずにスモールスタートできるマルシェは、新たな事業者の育成や既存事業者の販路拡大に有効であり、稲城市の経済活性化に大きく寄与するものと考えます。市として、こうしたマルシェ等の形式での公共空間活用を、市内の各地域でさらに推進していくための具体的な戦略や支援策について、どのように考えているかお伺いします。	
	② 雨天中止リスク等への懸念から公共空間（公園、道路、広場等）の活用を躊躇することがないように、「商業利用」と「公共性」の線引きについて、より実態に即した基準緩和を図る制度改正を検討すべきと考えますが、ご所見をお伺いします。	
	③ 他自治体では、地域振興や活性化を目的とする「まちづくり会社」や「エリアマネジメント団体」が公共空間（公園、道路、広場等）の活用を推進し、多様なイベントや商業活動を継続的に展開している事例が見られます。本市においても、そのような組織を公共空間活用の推進役として位置付け、連携強化していくことについてお伺いします。	
	④ 稲城市が「ほどよく田舎 ほどよく都会なまち」という独自の魅力を活かし、経済活性化を図るには、市外からの来訪者誘致が不可欠です。市として、公共空間（公園、道路、広場等）でのイベントを契機とした、市外からの来訪者誘致と市内経済への波及効果について、ご所見をお伺いします。	
	⑤ 公共空間の活用を単発のイベントに終わらせず、継続的な賑わい創出と地域経済の活性化に繋げるためには、市による支援体制の強化が不可欠です。市としてどのような取り組みが可能であると考えているのか（広報宣伝、リスク軽減策、相談窓口等）、ご所見をお伺いします。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	大規模災害時におけるマンション防災対策への対応について	
	近年、大規模災害の頻発化・激甚化が懸念されており、本市においても地域防災力の強化は喫緊の課題であります。稲城市も多くの大規模マンションがあり、災害時におけるマンション住民の安全確保は重要な論点です。マンションにおいては、耐震性や防火性などの構造的な安全性に加え、停電時のエレベーター停止や断水時のトイレ使用不可といったマンション特有の課題があり、これらへの対策が不可欠です。また、避難所開設・運営のキャパシティや負担軽減等の観点から、「在宅避難」の重要性も高まっています。マンションにおける防災対策は、住民の自助努力に加え、自主防災組織や管理組合、そして自治体との連携が不可欠です。しかし、現状ではマンションごとの防災意識や対策の進捗状況にばらつきがあるため、市としてマンション特有の課題に対する具体的な支援策や指針を示す必要性も感じています。 つきましては、大規模災害時におけるマンション住民の安全確保と多様な避難ニーズへの対応を図るため、市の方針と具体的な取り組みについて以下質問します。	
	(1) マンション防災に関する市の認識と位置付けについて	
	① 稲城市地域防災計画において、マンション防災はどのように位置付けられ、特に重要視している課題は何であるか、市のご認識をお聞かせください。	
	② 市として、マンション自主防災組織または管理組合に対し、具体的にどのような取り組みを行っているのか、その内容についてご説明ください。また、市内のマンションのうち、どの程度の自主防災組織または管理組合がその取り組みに参加しているのか、現状についてお伺いします。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(2) 在宅避難に関する市の基本的な考え方について	
	① 大規模災害時における避難所への集中を避けるため、「在宅避難」の重要性が認識されています。本市として、在宅避難についてどのような方針を持ち、市民にどのような情報提供や啓発を行っているのか、ご説明ください。	
	② マンションにおける在宅避難の可否を判断する上での市の基本的な考え方や、管理組合・住民へ提供している具体的な判断基準（例：建物の損傷度、ライフラインの復旧見込み、備蓄品の有無など）があれば、ご提示ください。	
	(3) マンションにおける在宅避難の大きな課題として、停電時のエレベーター停止と断水時のトイレ使用不可が挙げられます。市として、これらマンション特有の課題に対し、どのような対策支援を検討しているのか、ご所見をお伺いします。	
	(4) 避難所運営とマンション住民の関わりについて	
	① 市の指定する避難所運営において、周辺のマンション住民がどのように関わることを想定しているのか、その役割分担や連携体制についてご説明ください。特に、マンション住民が避難所運営ボランティアとして参加する際の、市からの具体的な支援策や訓練実施状況についてお伺いします。	
	② 大規模マンションに設置されている「自主防災組織」と、避難所運営体制との連携をより強化していくため、市としてどのような取り組みを行っているかお伺いします。	

通 告 番 号	会 派 名	氏 名
9	公 明 党	佐藤しんじ

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
1	「朝の小1の壁」を解消するための対策について 「朝の小1の壁」とは、保育所に比べ、子どもを預けられる時間が短くなる小学校へ進学した折、働く保護者が子どもの預け先に困る、という問題です。以下、公明新聞からの引用になります。「保育所の多くは午前7時台から子どもを預けられる一方、小学校の登校時間は8時以降が一般的だ。対応できない保護者は子どもを家に残して先に出勤したり、子どもが開く前の校門近くで待つといったケースが生じている。こうした実態を把握するため、こども家庭庁は昨年、全国の市区町村に対し、子どもの朝の居場所に関する調査を初めて実施した。先月9日に公表された報告書によると、朝の居場所確保策を実施したり、検討していると答えた自治体は計3.1%にとどまり、対応が進んでいない実態が浮き彫りとなった。一方で、朝に自宅以外で子どもが過ごせる場所があれば『利用したい』と回答した小学1年生の保護者は4割を超えた。」この調査から、「朝の小1の壁」対策への潜在的なニーズが高いことがうかがえます。共働き世帯が増える中、社会の変化に対応した取り組みが求められると考えます。 (1)稲城市における「朝の小1の壁」の現状について伺います。 ①市に寄せられる保護者からの意見や要望等について伺います。 ②小学校の校門前で開門を待つ児童がいる等、そのような状況が生じているのか伺います。 ③「朝の小1の壁」に対する市の認識について伺います。 (2)東京都豊島区では、学校の用務員が校内で子どもを見守る体制で朝の見守りを実施しています。また大阪府豊中市では、民間警備会社の見守り員を配置し、7時から体育館な	

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
2	どで児童を受け入れています。「朝の小1の壁」対策を実施している、このような他の自治体の例を参考に、稲城市における「朝の小1の壁」対策をご検討いただきたいと思います。市の見解を伺います。 特別支援学級と通常学級の交流について 児童・生徒の個に応じた適切な教育を行う特別支援教育と、障がいの有無にかかわらず、同じ時、同じ場所で学ぶインクルーシブ教育は、児童・生徒にとり、いずれも重要な教育でと考えると。あわせて、特別支援学級と通常学級の交流も、大切な取り組みであると認識しています。 (1)特別支援学級と通常学級の交流における現状について伺います。 ①主な取り組みについて伺います。 ②成果について伺います。 (2)特別支援学級が設置されている小中学校の入卒式について伺います。入卒式において、特別支援学級の児童・生徒の入退場の仕方について伺います。 (3)特別支援学級と通常学級の交流における今後の取り組みについて伺います。	
3	市民後見人の拡充について 市民後見人とは、弁護士や司法書士などの資格をもたない、親族以外の市民による成年後見人等であり、市町村等の支援を受けて後見業務を担います。主な業務は、ひとりで決めることに不安のある方の金銭管理、介護・福祉サービスの利用援助の支援などです。高齢化が進行する社会において、身寄りがなく、認知症等を患い判断能力が低下しゆく独居高齢者等の金銭に関わる契約行為等は大変憂慮されるところ	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	であります。このような状況が深刻化する中、市民後見人の果たす役割は大きくなるものと考えます。 (1)成年後見人制度における、市民後見人の現状について伺います ①過去5年間ににおける、市民後見人の登録者数について伺います。 ②直近の、稲城市民による成年後見人制度の利用者数と、そのうち、市民後見人の利用者数について伺います。 ③市民後見人への市のサポートについて伺います。 (2)現状に対する、市の課題認識について伺います。 (3)今後の取り組みについて伺います。 家族の介護負担を軽減する取り組みについて 主に家族が担ってきた介護を、社会全体で負担する「介護の社会化」を掲げた介護保険制度が2000年度から開始され、介護保険サービスの利用者数は、当初の184万人（2000年度）から575万人（2020年度）へと3倍以上に増加し、制度は国民生活に定着しています。ショートステイ（短期入所）や、デイケア（通所介護）などの介護保険サービスを利用しながら家族を介護する人も増え、家族の介護負担は着実に軽減されてきています。しかし、厚労省が2022年に行った「国民生活基礎調査」によると、「主な介護者」の約半数は同居家族であり、具体的には、「配偶者」が22.9%、「子」が16.2%、「子の配偶者」が5.4%と続きます。別居の家族も含めると、主な介護者の6割近くは家族であり、事業者は15.7%とのことです。この調査結果から、主な介護の担い手になっているのは、今なお家族が多い状況であることが分かります。そして、老老介護やビジネスケアラー、ヤングケアラーといった課題も顕在化していることから、家族の介護負担を軽減する取り組みを更に進めることは引き続き必要であると考えます。	

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
	(1)介護保険における訪問介護の生活援助について伺います。 ①利用者が一人暮らしの場合以外の理由で生活援助を利用できるケースについて伺います。 ②利用者が一人暮らしの場合以外の理由で生活援助を利用できるケースにおいて、その認定に至るための具体的なプロセスについて伺います。 (2)老老介護の場合や、主な家族介護者が、ビジネスケアラーやヤングケアラーである場合、そのことを理由として生活援助を利用できるようにすべきと考えますが、市の見解を伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
10	無所属	武田まさひと

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1.	犬の飼育に関するマナー啓発、行政の対応強化について	
	近年、本市においては犬の登録頭数が増加傾向にあり、それに伴い、犬の糞尿の放置や公園内での抜け毛など、地域の生活環境に影響を及ぼす事案が増えていると認識しております。市民の皆様からも、こうした飼い主のマナーに関する苦情や改善を求める声が寄せられており、マナー向上に向けた取り組みが必要であると考え質問をします。	
	(1) 犬の登録状況および苦情の現状把握について	
	① 稲城市における犬の登録頭数の現状および過去5年間の推移について伺います。	
	② 多摩 26 市と比較した際の登録頭数の状況について、どのように把握されているか伺います。	
	③ 直近5年間における、犬に関する苦情の件数および内容について伺います。	
	(2) 市の現在の取り組みについて	
	① 市として、犬の飼い主に対するマナー啓発について、現在どのような取り組みを行っているか伺います。	
	② 犬の糞尿の放置などの問題に対する具体的な対応策について	
	(3) 今後の方針について	
	① 公共の場におけるマナー向上を図るため、市として今後、啓発活動の強化に取り組む考えはあるか伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	② 犬の糞尿などをそのままにすることは軽犯罪法第1条27号に該当しますが、その内容を伺います。	
	③ 抜け毛に対する対応について、どのような啓発をしているのか伺います。	
2.	稲城市におけるドッグラン設置に向けた取組状況について	
	稲城市では、かつて「ドッグランボランティア検討会」が設置され、設置の是非や管理運営のあり方について議論が行われていましたが、令和2年度をもって検討会は解散しています。その後の進展について市民への情報共有が十分ではないとの声もあり、今後の方向性について市の考えを伺います。	
	(1) 市内各所でリードを外した犬に関する苦情が寄せられていることについて	
	① 現在、市内のどのような場所でリードを外した犬に関する苦情が寄せられているのか、実態を伺います。	
	② 苦情が寄せられた時、または職員が実際に目撃した場合、市としてどのような対応を取っているのかを伺います。	
	(2) ドッグラン設置に向けた対応について	
	① ドッグランボランティア検討会の解散後、市としてドッグラン設置に関する方針検討や調査等を行っているのか伺います。	
	② 検討会での議論の成果や課題について、どのように整理・継承されているのか伺います。	
	③ 今後、新たな市民参加型の検討体制を設ける予定はあるのか伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(3) 他市の先行事例を踏まえた稲城市での可能性について	
	① 多摩 26 市のうち、現在ドッグランを設置している自治体は何市あるのか、市としての把握状況を伺います。	
	② 多摩 26 市の先進事例について、現地視察などは行っているのかを伺います。	
	③ 狛江市のように、自然災害への備えを考慮した、仮設型ドッグランを導入する可能性について、市の見解を伺います。	
	(4) 今後の基本的な考え方について	
	① ドッグランの運営方法として、市直営・民間委託・市民団体との協働などのモデルがありますが、現時点で市として有望と考える手法はどれか伺います。	
	② 市内における設置候補地として、例えば南山東部の奥畑谷戸や、トンネル化後の尾根幹線道路などの可能性について、市の検討状況を伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
11	新政会	角田 政信

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	ジャイアンツタウン スタジアムのオープンで期待する効果や今後の取り組みについて	
	(1) ジャイアンツタウン スタジアムの来場者について ① イースタン・リーグ戦の来場者の延べ人数について伺います。 ② 一試合当たりの平均来場者数について伺います。	
	(2) ジャイアンツタウン スタジアムを訪れた多くの来場者を稲城市の地域や経済の活性化につなげる取り組みについて ① 稲城市デジタルマップの導入の経緯と概要について伺います。 ② 稲城市デジタルマップの掲載にかかる費用と用途について伺います。 ③ 稲城市デジタルマップの掲載数と利用状況について伺います。	
	(3) ジャイアンツタウン スタジアムの利用状況について ① ジャイアンツタウン スタジアムで行われたイベントについて伺います。 ② 稲城市のスポーツ振興のための活用事例について伺います。	
	(4) ジャイアンツタウン スタジアムを活用した今後の取り組みについて伺います。	

[illegible]

通告番号	会派名	氏名
12	公明党	湯谷 ひろし

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	災害時のトイレ確保について 令和7年3月、東京都は、首都直下地震等による都の被害想定等を踏まえ、災害時におけるトイレの環境向上を図る観点から、「東京トイレ防災マスタープラン」をとりまとめ、公表しました。 「東京トイレ防災マスタープランの概要」には、フェーズごとのライフライン被害や、避難者等の発生想定を踏まえ、適正な配置に必要な量の災害用トイレの整備を推進するとの記載がございます。本市においても「災害時のトイレ確保・管理計画」をどのように策定していくのかについて検討する時が来ています。 更に、自助・共助・公助の連携による様々な方策を展開し、災害時に対応できるトイレを確保することが必要であるとの立場から質問を致します。 (1) 本市の災害時におけるトイレ確保について ①災害時におけるトイレ確保の考え方について伺います。 ②トイレの備蓄配備について各避難所に必要数が備蓄されているか、不足した場合の対応について伺います。 (2) 「東京トイレ防災マスタープラン」を受けての本市の取り組みについて ①東京トイレ防災マスタープランが策定され、その中では避難所だけでなく公園や開発地域でのマンホールトイレ整備などに	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	よりトイレの空白地域を埋めるよう記載がありますが、市の見解について伺います。	
	②東京トイレ防災マスタープランでは、予防・応急・復旧各フェーズを考慮した災害用トイレの確保が盛り込まれました。市の対応について伺います。	
2	自転車の交通安全対策及び利用環境の整備について	
	令和6年11月に施行された「改正道路交通法」により、交通事故を抑止するため新しく罰則規定が整備されました。	
	これを機に、市民に対し法改正を周知し、更には、「第8次稲城市交通安全計画」について理解を深めていただくことが重要です。	
	また、公共交通機関の運行時間等の関係から、通勤・通学等に自転車を利用する市民は増えるものと推測されます。更なる交通安全対策、自転車利用環境の整備、特に自転車走行空間の整備や駐輪場の整備は急務であると考えます。	
	(1) 過去2年間の市内において自転車が関与した交通事故件数を伺います。	
	(2) 自転車走行空間の整備について	
	①「稲城市自転車ネットワーク計画」において選定された「稲城市自転車ネットワーク路線」整備の進捗状況及び整備内容について伺います。	
	②「第9次稲城市交通安全計画」策定について伺います。	
	(3) 南多摩駅周辺の駐輪場について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	①南多摩駅東・西自転車等駐車場の過去3年間における利用数及び利用率について伺います。	
	②南多摩駅周辺の駐輪場増設について伺います。	
3	肺炎予防について	
	東京都の令和5年「人口動態統計」によりますと、死因別死亡者数において「肺炎」は第5位になりました。肺炎で亡くなる方の多くは高齢者ですが、肺炎につながるRSウイルスは、乳児期の赤ちゃんが感染すると重篤化することもあるため、公明党は、RSウイルスワクチンの定期接種化を速やかに進めるよう国会で訴えて参りました。本市が行っている予防接種費用助成事業の接種率向上、成人患者を対象とした治療方法がないRSウイルス感染症の予防対策、更には、令和7年4月7日から開始された「急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランス」のデータを有効に活用し、市民に対し早めに注意喚起することや予防対策を立てることが大切であると考えます。	
	（1）本市の直近3か年における肺炎による死亡者数及び死因別死亡者数の順位について伺います。	
	（2）本市の肺炎予防の取り組みについて	
	①本市の令和6年度におけるインフルエンザワクチン、新型コロナウイルスワクチン、肺炎球菌ワクチンの予防接種費用助成事業におけるそれぞれの対象者人数、接種人数及び接種率について伺います。	
	②予防接種費用助成事業における接種率向上の取り組みについて伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
13	日本共産党	岡田まなぶ

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
1	路線バス・i バスを地域公共交通として守る取り組みについて 令和 7 年（2025 年）5 月 23 日の稲城市地域公共交通会議で、i バスの見直し（案）がたたき台として示された。市民の暮らしに欠かせない地域公共交通として、路線バス・i バスを守る取り組みを求めて質問する。 （１）文化センターや図書館、病院や買い物、通勤通学、市民の日々の暮らしに欠かせない地域公共交通としての路線バス・i バスの重要性についての認識は。 （２）私たちは、i バス見直しは、現行の i バス路線と本数を維持できるように取り組むとともに、代替案（デマンド交通など）も同時に検討しながら、地域公共交通として、市民サービスを守る取り組みをと求めてきた。i バス路線見直し（案）の主な内容は。 （３）見直し（案）の路線と運行台数の基本的な考え方は。 （４）見直しにあたって運賃が値上げにならないようにすべきと考えるが認識は。 （５）見直し（案）について令和 7 年（2025 年）5 月 23 日の稲城市地域公共交通会議で出された主な意見は。 （６）見直し（案）について市民の意見を聞くことが重要と考えるが認識は。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(7) iバス見直しの今後のスケジュールは。 (8) オンデマンド交通実証実験の内容とスケジュールは。 (9) 稲城市の路線バス・iバスをはじめ、全国各地のバス減便や路線廃止の危機を打開していくためには、独立採算というこれまでの考え方を転換し、市民の交通権・移動権を保障する視点にたって、地域公共交通として国や東京都が財政支援を強化していくことが求められる。 東京都市長会などを通じて、国、東京都に路線バス・iバス（コミュニティバス）への支援・補助の拡充・強化を求めるべきと考えるが認識は。 2 多摩サービス補助施設の返還等について 希少動植物の宝庫であり、貴重な戦争遺跡である多摩火工廠跡の残る多摩サービス補助施設の返還等を求めて質問する。 (1) 多摩サービス補助施設についての市の基本的な認識は。 (2) 希少な動植物の生息状況と保全の必要性についての認識は。 (3) 多摩サービス補助施設内の旧日本軍の遺構の歴史的・教育的価値について認識は。 (4) 旧日本軍の遺構についての歴史調査の取り組みは。 (5) 旧日本軍の遺構を保存する必要性について認識は。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	(6) 旧日本軍の火薬製造工場の多摩火工廠の歴史について、多摩市が作成した映像資料「青空が見ていた多摩」の内容と活用の状況は。 (7) 多摩サービス補助施設の早期返還を求めることについて認識と取り組みは。 (8) 返還後には、希少動植物、貴重な戦争遺跡を保全し、自然公園として整備していくべきと考えるが認識は。 向陽台地域の歩道の改修等について 向陽台公園通りをはじめ、向陽台地域の歩道は、歩道の破損や根上がりが増え、市民から改修や補修を求める声が多く寄せられる。 向陽台地域の歩道の改修等について質問する。 (1) 向陽台地域の歩道の破損や根上がりの状況について市の認識は。 (2) 歩道の改修・補修の取り組み状況は。 (3) 向陽台地域の歩道の改修・補修を計画的に進める検討をすべきと考えるが認識は。	

通告番号	会 派 名	氏 名
14	新政会	梶浦みさこ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	消防・救急・防災分野における DX の推進について 消火・救急・救助など人の命を救うための業務や、災害の被害を最小限にするための予防・防災業務等を的確かつ迅速に遂行するためデジタル技術の効果的な活用により消防力を強化し、市民の暮らしと未来を支えるチカラとなるよう消防・救急・防災分野における DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進について伺います。 (1)マイナンバーカードを活用した救急業務の円滑化(マイナ救急)について (2)災害時の映像情報共有手段の充実について (3)救急活動における手書き情報のテキスト化について (4)消防指令システムのインターフェースの標準化・消防業務システムのクラウド化について (5)消防団活動におけるデジタル技術を活用した消防団 DX について (6)消防団員数が減少傾向にある中で情報収集力の向上を目指した消防団へのドローン配備について (7)火災予防分野における各種手続電子申請等の取り組みについて (8)火災現場における赤外線カメラ等の活用による煙や粉じんの可視	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	化について	
	(9)消防・救急・防災分野における DX のさらなる推進による市民の 安心と消防職員の安全確保、消防行政の業務効率化について	
2	気候変動に適応したグリーンインフラについて 浸水対策の強化と良好な水循環による持続可能なまちづくりとし て、自然環境が有する多様な機能を活用する「グリーンインフラ(グリー ンインフラストラクチャー)」の取り組みについて伺います。 (1)公園におけるグリーンインフラとしての機能について認識を伺いま す。 (2)道路・歩道におけるグリーンインフラとしての機能について認識を 伺います。	
3	プレコンセプションケア(プレコンケア)について 稲城市で子供を産み育てたいと考える女性やカップルに対し、プレ コンセプションケア(将来の妊娠・出産のための健康管理)を市として 取り組むことにより、生まれる赤ちゃんの健康と子育てを望む男女・ カップルのウェルビーイングが向上し、稲城市の持続可能な発展につ ながることと考え質問します。 (1)プレコンセプションケアの市の認識について (2)プレコンセプションケアの市の取り組みについて	

通告番号	会 派 名	氏 名
15	稲 志 会	土居のりひろ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	地域住民参加型雑草対策について 近年の気候変動の影響により、市内の公園施設や管理地、多摩川の河川敷、道路沿いの緑地などにおいて、雑草が繁茂し、通行の妨げとなっている箇所や、除草処理が追いついていない状況が見受けられます。 こうした状況の中、通学路や日常生活で使用される歩道においても、雑草を避けながらの通行を余儀なくされることで、歩行者同士のすれ違いが困難になるなど、安全面での懸念の声が寄せられています。 市としても、限られた予算の中で造園業者やシルバー人材センターを活用し、適切な時期を見計らいながら対応を進めていることは十分に承知しております。しかし一方で、地域住民の中には自ら草刈り器具を購入し、子どもたちの通学路の除草を自主的に行ってくださっている方や、市が管理する自治会館裏の管理地の草刈りを担ってくださっている方もいらっしゃいます。 他自治体の取り組みとしては、岐阜県御嵩町が「みたけ草刈りサポーター」制度を導入し、町が指定する公園、道路、河川敷などでの草刈り活動を支援しています。また、大分県大分市では、市が管理する市道や河川の草刈りを実施した団体に対し、作業面積に応じた報償金を支給する助成制度を設けています。 こうした状況を踏まえ、市としても対応が困難な雑草繁茂への対策について、市民の協力と理解を得ながら、地域住民参加型の雑草対策を推進する必要があると考えます。	
	(1) 雑草繁茂の現状と市の認識について	
	① 近年における雑草繁茂対策について	
	② 公園施設、管理地、多摩川河川敷、通学路や歩道で雑草が繁茂することによる市民の生活や安全に対する影響について	
	③ 現状の対策と工夫について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(2) 市民が自発的に行っている除草などの活動に ついて	
	①市の認識について	
	②効果および課題について	
	③今後について	
	(3) 地域住民参加型の雑草対策について	
	①現状について	
	②効果および課題について	
	③今後について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	在留外国人との共生社会実現に向けた施策について	
	我が国の在留外国人数は平成 27 年の約 217 万人から令和 6 年には約 359 万人へと増加し、10 年間で 65.2% の増加率を記録しています。在留外国人の増加は地域社会に多様性をもたらす一方、教育、福祉、治安、文化的な摩擦などさまざまな課題を生む要因ともなります。 稲城市も例外ではなく、生活する在留外国人が年々増加傾向にあるといえます。 新しく街が作られている南山地域では、古くからある地域以上に在留外国人の住居が多く、地域ごとの在留外国人比率によっては地域コミュニティ形成に影響があることが予想されます。 群馬県大泉町では住民の 15.3% が外国人で、犯罪率の増加、交通事故の未解決、地域住民とのトラブルなど、様々な課題が発生しております。 埼玉県川口市では令和 5 年 7 月、クルド人同士の殺人未遂事件が発生し、約 100 人のクルド人が病院に押し寄せる騒動が起きました。これら諸問題を受け令和 7 年 5 月 28 日に自由民主党の小野寺五典政調会長が現地を視察し「(現行の法制度では) 十分対応しきれていないことが多々ある」と指摘しました。 様々な課題が顕在化する前に、市内の在留外国人との共生社会を実現する為、市の方針について伺います。	
	(1) 在留外国人統計データについて	
	① 稲城市における外国人住民数の 10 年前、5 年前、現在の推移について	
	② 現在の外国人住民の国籍別上位 5 か国とその人数について	
	③ 現在の南山地区(区画整理地内)の人口と外国人住民数について	
	(2) 災害時における外国人支援体制について	
	(3) 地域社会への参加促進、特に南山地区の自治会設立に向けた取組における在留外国人支援について	
	① 現状について	
	② 共生社会実現に向けた在留外国人の支援について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	在留外国人の国民健康保険税の未納問題について	
	我が国は国民皆保険制度を基盤としたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ実施国です。国内の居住者が等しく医療サービスを受けられる制度ではありますが、近年、在留外国人の増加に伴い、国民健康保険制度における保険料の未納問題が顕在化し、深刻な社会問題として認識されるようになりました。 これらの問題は、我が国の社会保障制度の維持、地方自治体の財政健全性、医療機関の運営などに広く影響を及ぼします。 本市においても例外ではないと考えます。市立病院を抱える稲城市としても、制度の公平性や持続可能性について懸念の声も上がっております。 市として、限られた予算と人員の中で、制度の周知や徴収に努めていることは重々承知しておりますが、この問題が自治体財政への負担、ひいては市民サービスの低下に繋がりがかねない喫緊の課題であることを鑑み、市の考え方について伺います。	
	(1) 在留外国人に関する国民健康保険の現状と	
	課題について	
	① 稲城市における外国人の国民健康保険加入者数と	
	全体に占める割合について	
	② 稲城市における外国人の国民健康保険税の収納に	
	おける課題について	
	(2) 今後の収納対策について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	人権問題に関する市の取組について	
	北朝鮮による拉致被害者の即時一括帰国を求める「国民大集会」が、令和7年5月24日に東京都内で開催されました。 この集会には、石破茂首相をはじめ、自由民主党、公明党、立憲民主党、国民民主党、日本維新の会、参政党、日本保守党の各政党関係者や、神奈川県黒岩知事、拉致被害者家族会、救う会の関係者など、800名を超える参加者が集い、問題解決への強い意志が示されました。南多摩選挙区選出の都議会議員であるこいそ明都議も、拉致問題地方議会全国協議会の副会長であり、本集会の主催者です。かくいう私自身も、市議会議員となる前から、救う会の一員として活動し、都内各地で署名活動を行ってまいりました。 本年2月には、拉致被害者・有本恵子さんの父親である有本明弘さんが逝去され、拉致被害者の親世代でご存命なのは、横田早紀江さんお一人となりました。拉致問題は、我が国が抱える最大の人権問題であり、拉致被害者の即時一括帰国は、被害者ご本人とそのご家族、そして日本国民すべての切なる願いです。 しかしながら、この拉致問題は、教育現場や報道機関において大きく取り上げられることが少なくなり、年々風化が進んでいるのが現状です。この日の集会で神奈川県の黒岩知事は、拉致問題を県内の公立学校で取り上げるよう、教育現場に対して働きかけを行っていることを述べておられました。 拉致被害者を一人残らず取り戻すためには、稲城市の市内公立学校に通う生徒をはじめ、より多くの市民にこの問題を正しく理解してもらい、関心を持ち続けてもらうことが必要不可欠です。 そこで、市として拉致問題の啓発や教育にどのように取り組んでいくのか、その方針について伺います。	
	(1)学校教育における拉致問題の取り扱いについて	
	①公立学校における教育課程(具体的な学習内容や時間数、使用教材等)での取扱いについて	
	②公立学校における拉致問題に関する具体的な教育に関する計画について	
	③教職員が拉致問題に関する理解を深め、児童・生徒に対して適切に指導できる体制作りについて	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(2) 市民への啓発活動の強化について	
	① これまでの啓発活動について	
	② 幅広い世代に対する啓発活動の工夫などについて	
	(3) 市としての拉致問題解決に向けた決意と今後の	
	展望について	

通告番号	会 派 名	氏 名
16	日本共産党	田島きく子

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
1	小中学校校舎の断熱化について 地球温暖化が進み、酷暑対策が喫緊の課題となってから久しいです。稲城市立の小中学校では、普通教室と体育館のすべてにエアコン設置が実現しました。しかし温暖化がさらに厳しくなったことから、断熱化が必要になっています。学校を断熱化することは、子どもの健康を守り、学習環境を整え、地球温暖化の原因である二酸化炭素の削減にも大きく貢献すると考えます。 (1) 新しい校舎の断熱化について ① 稲城第二小学校校舎増築工事、稲城第三小学校校舎建替え工事において、断熱化を実施する目的について聞きます。 ② 二小および三小での断熱化の工事内容について聞きます。 (2) 既存の建物の断熱化について、早くから試みている葛飾区立清和小学校で話を伺ってきました。こういった都内の学校施設における既存の建物への断熱化の取り組みについて把握しているか、市の認識を聞きます。	
2	ひとり暮らしの高齢者のための見守り電球サービスについて (1) 見守り電球サービスを開始した経緯について聞きます。 (2) これまで見守り電球サービスが機能して、さまざまな課題が解決された具体的な事例とその数を聞きます。 (3) 見守り電球サービスのサービス利用料について聞きます。 (4) 利用者の人数について ① 無料でこのサービスが利用できた期間の年度ごとの利用者人数について聞きます。 ② 現在の利用者人数について聞きます。 (5) これまでのように利用者負担無しで利用できるようにするべきだと考えますが、市の認識を聞きます。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	稲城市内の駅の駐輪場の利用について 稲城市内6駅の駐輪場の利用者数が増えています。定期契約が難しくなっているという市民からの声がありました。 (1) 6つの駅のそれぞれの定期契約、および一時利用の利用状況を聞きます。 (2) バスの減便により、自転車利用者は増えています。駐輪場の不足によりさまざまな不便な状況が起きることも考えられます。市としての対策を聞きます。	
4	教育費の保護者負担の軽減について (1) 学校給食について ①今年度の給食費無償化についての保護者への周知状況について聞きます。 ②児童生徒が不登校となっている世帯の給食費の扱いについて聞きます。 ③夏休みにも給食を提供してほしいという声が寄せられています。認識を聞きます。 (2) 宿泊行事の無償化について ①「稲城市児童生徒宿泊費補助金交付要綱」が作られた経緯について聞きます。 ②宿泊行事を全額補助した場合に必要な予算額について聞きます。 ③宿泊行事の補助額の増額について認識を聞きます。	
5	保育園給食費の無償化について (1) 現在の3歳児から5歳児クラスの保育園給食費月額6000円の金額の根拠について聞きます。 (2) 多摩地域における保育園給食費の金額別の自治体数と自治体名について聞きます。 (3) 保育園給食費についても無償化が必要であると考えますが認識を聞きます。	

通告番号	会 派 名	氏 名
17	改革未来の会	榎本 久春

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
1	居宅介護支援事業所のケアマネジメントのあり方について	
	介護が必要な高齢者にサービスを仲介するケアマネジャーの業務負担が増えています。本来業務であるケアプランの作成に加え、利用者やその家族から多くの相談や依頼が寄せられることが要因といわれております。こうした現状を踏まえ、ケアマネジメントのあり方について、業務の範囲を明確に示すことが重要だという見解があります。担い手不足を招かないためにも、ケアマネジャーが働きやすい環境を整備することが求められます。ケアマネジメントのあり方について伺います。	
	(1) 居宅介護支援事業所及びケアマネジャーの業務について伺います。	
	(2) ケアマネジメントの質の向上に向けた取組について伺います。	
	(3) 人材確保・定着に向けた取組について伺います。	
	(4) ケアマネジャーの業務範囲の認識について伺います。	
	(5) 担い手不足を招かないようにするためにも、ケアマネジャーが働きやすい環境を整備することが求められていますが、市の取組について伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	中学校の部活動の現状について	
	少子化の影響により、中学校での部活動の継続が困難になる学校が増加しています。また、教員の働き方改革の一環として、部活動の負担軽減も重要な課題です。こうした背景のもと、全国の公立中学校では「部活動改革」が進められており、スポーツ庁と文化庁の有識者会議では、国が主導する改革機関の活動期間を6年間延長し、指導を地域のスポーツ・文化団体に委ねる「地域展開」（旧称：地域移行）」を平日にも本格的に実施するよう提言されました。これまで休日に先行して進められてきた地域展開も、令和13年度までに全国での実現を目指すとしています。部活動は本来、生徒の自主的・自発的な参加によって行われるものであり、スポーツや文化に親しむ貴重な機会でもあります。運動部では体力の向上や健康の維持が、文化部では知性や教養が育まれるなど、部活動は中学校において重要な教育的役割を果たしていると考えます。中学校の部活動について伺います。	
	（１）中学校の部活動の種類と数、外部指導者の活動の現状について伺います。	
	（２）地域指導者の人材確保と質の担保について伺います。	
	（３）指導者への財政的支援について伺います。	
	（４）教育的意義の継続確保についての認識を伺います。	

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
	(5) 部活動を行う上での課題について伺います。	
	(6) 今後の部活動の取組について伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
18	改革未来の会	いそむら あきこ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	小学校での朝の子どもの見守り体制と安全な学校づくりについて 本市においても共働き世帯の増加や多様な働き方が進む中で、子育てと就労の両立支援はますます重要な課題となっています。特に、保育園から小学校へと進学するタイミングで直面する「小 1 の壁」は、多くの保護者にとって深刻な悩みの一つです。その中でも、朝の登校前の時間帯における子どもの見守り体制の不足は、安全面・就労面の両面から大きな課題となっていると感じます。 そこで、本市の小学校における、朝の子どもの見守り体制の現状や取り組みについて伺います。また合わせて、5 月に起きた立川市の小学校での暴行事件を受け、改めて本市の安全な学校づくりの取り組みについて伺います。 (1) 小学校での朝の子どもの見守り体制について ①直近の公立保育所における、朝 7 時～8 時までの間に保育を利用していた人数と割合を伺う。 ②小学校に進学した際、保護者の就労時間と学校の受け入れ時間との間にギャップが生じる、いわゆる『小 1 の壁』と呼ばれる問題について市の認識を伺う。 ③各小学校における、朝の校舎に入れる時間及び、登校時間前に子どもたちが校舎に入れず待機している実態について伺う。 ④朝の登校前の子どもの見守りや居場所について、保護者からの意見やニーズをどのように把握されているか伺う。 ⑤令和 6 年度に、こども家庭庁と文部科学省が策定された「放課後児童対策パッケージ 2025」に記載されている「朝のこどもの居場所づくりの推進」について、内容を伺う。 ⑥東京都の令和 7 年度予算に新たに計上されている「朝の子供の居場所づくり」の概要について伺う。 ⑦他の自治体では、朝の見守りや居場所づくりとして地域ボランティアや民間事業者等に委託を行っているところもあるが、本市での今後の検討及び方針について伺う。 (2) 安全な学校づくりについて ①市内小中学校における不審者侵入防止策や対応等の取り組みについて伺う。 ②今後の取り組みの拡充について伺う。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	災害時に要配慮者を守るための福祉避難所のあり方について 令和３年の災害対策基本法の改正により、福祉避難所の指定および運営に関する事項が明確化され、災害時における要配慮者の適切な保護体制を強化するための取り組みが進められています。しかし、令和６年に発生した能登半島地震においては、施設や職員自身が被災して福祉避難所を開設できないケースや、開設しても避難者を受け入れられない事例が相次ぎ、そのあり方について課題が浮き彫りとなりました。 そこで、災害対策基本法の改正を踏まえ、本市における災害時の要配慮者を守るための福祉避難所の現状と、今後の取り組みについて伺います。 (１) 令和３年に改正された災害対策基本法における、福祉避難所に関する主な内容及び福祉避難所に関する課題認識について伺う。 (２) 災害対策基本法の改正を踏まえた、本市における指定福祉避難所への指定及び直接避難についての検討状況を伺う。 (３) 現在、福祉避難所としている施設名と施設ごとの対象者、及びそれらの公示について見解を伺う。 (４) 今後、福祉避難所の質的・量的な充実を図る上で、本市としてどのような方針や具体的な取り組みをお考えであるのか伺う。	
3	学童クラブ及び放課後子ども教室におけるアレルギー対応について 近年、食物アレルギーを持つ児童が増加しており、学校生活のみならず、放課後の居場所においても、安全・安心な環境整備が重要な課題となっています。本市においても、学童クラブや放課後子ども教室は、多くの子どもたちが利用する生活の場であり、アレルギーを持つ子どもたちが安心して過ごせるよう、より一層の配慮が求められます。 そこで、以下の点について、本市の現状と課題を明らかにし、今後の取り組みについても伺います。 (１) 学童クラブについて ①直近の学童クラブの登録児童のうち食物アレルギーのある児童数及びその割合について伺う。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	②各学童クラブにおける、アレルギーのある児童へのおやつ提供状況（提供の有無、代替品の提供状況、保護者との連携状況等）について伺う。 ③各学童クラブにおける、アレルギー疾患に関する研修の実施状況、及び万が一、重篤なアレルギー症状が発生した際のエピペンの使用に関する方針や体制について伺う。 (2)放課後子ども教室について ①直近の放課後子ども教室の登録児童のうち食物アレルギーのある児童数及びその割合について伺う。 ②令和5年度より、放課後子ども教室において、おやつ提供が試行的に実施され、令和6年度より本導入となっているが、おやつ提供を導入された目的と、直近のおやつ利用状況について伺う。 ③放課後子ども教室における、アレルギーのある児童へのおやつ提供状況（提供の有無、代替品の提供状況、保護者との連携状況等）について伺う。 ④放課後子ども教室における、アレルギー疾患に関する研修の実施状況、及び万が一、重篤なアレルギー症状が発生した際のエピペンの使用に関する方針や体制について伺う。	
	心身障害者のタクシー料金給付事業における利便性向上について 現在、本市における心身障害者の方々へのタクシー料金助成制度は、利用者がタクシーを利用した際の領収書を保管し、後日まとめて市役所に申請を行う方式となっています。この制度は、一定の補助が受けられる点で意義あるものですが、一方で、障害のある方にとっては、領収書の管理や申請手続きなど、実際の運用面で大きな負担となっているという声をいただいています。他市では、「タクシー利用券（チケット方式）」を導入している自治体や、新たに外出支援金制度を始めている自治体もあります。 そこで、心身障害者のタクシー料金給付における利便性向上の観点から、以下の点について伺います。 (1)直近5年間の心身障害者のタクシー料金給付事業における利用率について伺う。 (2)本市が現在の「領収書による申請方式」としている理由、及び運用上の課題について認識を伺う。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(3) 都内 25 市の心身障害者のタクシー料金給付事業における方式ごと （領収書による申請、タクシー利用券、支援金の現金給付等）の内訳につ いて伺う。 (4) 利用者の利便性の向上という観点から、領収書による申請以外の方式を 検討すべきではないかと考えるが見解を伺う。	